

# 進路だより

第2号 (2015年7月3日発行)

大分県立芸術緑丘高等学校  
進路指導室

芸術緑丘高校美術科を卒業した後、いろんな仕事に就いています。一部ご紹介します。

## ①大分大学からユニクロ社員へ

今永 亜紀



私は中学生の頃から絵を描くことが大好きだったので、将来は少しでも芸術に携わる仕事がしたくて、まずは専門的に学べる母校に進学した。母校では将来のことを考えた専門的なカリキュラムで勉強し、普通の高校生活では味わえないような体験をさせて頂いた。特に一年に一度の美術制作展ではいろいろな人と触れ合う機会でもあるのでいい経験になった。ほかにも楽しいイベントが盛りだくさんで充実した高校生活を送ることができた。大学への進学は将来への視野を広げ、より自由に自己表現の追求の為に進学。絵を描く以外にもダンス、音楽、書道などの体験をさせてもらえ、より将来への選択肢が広がった。好きな事を軸に高校、大学で学んだことを活かせるということで、現在は「色彩」の観点からカジュアル企業で販売の仕事をしている。そして、時間を見つけて制作をし、作品を発表しながら社会人生活を送っている。

## ②大阪芸術大学から劇団四季コスチューム入団

高野 久瑠実



劇団四季の舞台に立つというのが私の中学生の頃の夢でした。しかし、高校で美術を学んだことで、その学んだことを活かせればと思い、大学では舞台の裏方の勉強をしました。現在は、劇団四季で衣装のお仕事をさせてもらっています。華やかなステージの裏側は想像以上に大変なこともたくさんありましたが、お客様に最高の舞台をお届けしたいという気持ちで毎日頑張っています。

## ③女子美術大学からイラストレーター・デザイナーへ

宗野 菜穂



小さな頃からとにかく絵を描くことが大好きで、将来はイラストレーターやデザイナーといった絵を描く仕事に進みたいと思っていました。高校受験の際は、普通校に通い部活等で美術を学ぶか、芸術緑丘高等学校で専門的に美術を学ぶかで迷いましたが、やはり、大好きな美術をもっともっと専門的に学びたいという思いから、芸術緑丘高等学校を受験することに決めました。芸術緑丘高等学校の美術科は、学校の設備や授業内容はもちろん先生方もプロの芸術家やクリエイターであったりと、美術を専門的に学びたい人たちにとってまさに理想的な環境でした。同じような夢や目標を持った仲間達と共に学び、高め合いながら過ごした3年間で培ったものが今の私に繋がっていると思います。自分が好きな事、自分のやりたい事、自分にしか表現できないものを大切に、目標に向かってチャレンジしてください。

#### ④女子美術大学から母校の教壇へ

房前 早矢香

私は今、教員をしています。高校生の頃は将来自分が教員になるなんて夢にも思っていませんでした。今回そんな私が教員を目指すようになったきっかけを話すことで、少しでもみなさんの進路決定に役立てればと思い筆をとっています。

私は、芸術緑丘高校で油絵を専攻し、個性的なメンバーと一生懸命制作に取り組みました。10分間の休み時間も実技室に向かっていたあの時間がとても懐かしく思います。その当時、演劇の野田MAPや蜷川幸雄さんに興味があったので、衣装デザインを学びたいというぼんやりとした目標を持ち、デザインを学べる大学に進学しました。

大学では、テキスタイルデザインの基礎を学びました。染めや織り、羊毛フェルトを生地から造り立体造形を制作し、グループ展や個展をしていました。客員教授の蜷川さんの舞台裏を見学し、授業を受ける中で衣装デザインは自分のやりたいこととは違うなと思うようになりました。当時はずっと美術と関わり制作していたという漠然とした目標しかありませんでした。親には教員免許を取るようと言われていましたが、私は教員になるつもりはなく、免許を取りませんでした。



大学卒業後は大分県立芸術会館でアルバイトの期間を含め5年間勤務しました。美術館に勤務する中で、見る人の心に何かを残している美術の魅力や、来館した小中高生がきらきらとした眼で絵から何かを感じようとしている姿を目の当たりにしました。その時までは制作する側の視点しかもっていませんでしたが、この経験を通じて、美術の魅力をもっと多くの人に伝えたいと思うようになり、教員を目指すようになりました。教員という目標が定まってからは、働きながら通信課程で教員免許

を取得し、教員採用試験にチャレンジして教員としての道をスタートしました。

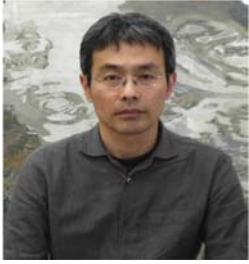
そんな私が一番大切だと思うのは、今自分が出来ることを一生懸命することです。私自信目標が定まらず、山あり谷ありの道のりでしたが、その時自分が出来ることに一生懸命取り組むことで、様々な経験や出会いから多くのことを学び、現在に至ります。みなさんの中にも、まだどのような職業に就きたいか悩んでいる人もいます。悩んでいるからといって立ち止まらず、今、自分が出来ることに精一杯取り組むことが、その先の道に必ず繋がると思うのです。人と比べず、自分が出来ることは何かを考え、その時の出会いや経験を大切にしてこれから進む道を切り開いて欲しいと思います。10年20年30年後どうなっているのか・・・でも健康が一番であることを忘れないでください。

いつも笑顔を忘れずに☆

房前 早矢香



⑤南 聡 (みなみさとる)



現在

九州産業大学芸術学部美術学科日本画コース准教授

2012 年第 5 回東山魁夷記念日経日本画大賞展 (上野の森美術館)

2010 年第 42 回日展特選

2006 年第 38 回日展特選

2003 年文化庁新進芸術家国内研修員

2002 年田川市美術館大賞選定「第 11 回英展」佳作賞受賞

2001 年大分の現代美術 11 (大分市美術館主催)

1999 年個展 (大分県立芸術会館)

1997 年ポーラ美術振興財団助成により一年間在外研修(LA)

1996 年個展(資生堂ギャラリー) 美の予感展(高島屋美術画廊)

1991 年多摩美術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業

1984 年大分県立芸術短期大学附属緑丘高校卒業

作品収蔵

東京都／今治市大三島美術館／大分市美術館／大分県立芸術会館



2012 年 ホルトホール大分緞帳デザイン原画 (780×1800mm)



雨の情景

2010 年(1820×2275mm)

第 42 回日展特選

2012 年第 5 回東山魁夷記念日経日本画大賞展 (上野の森美術館)